

Rosi Eugenio ローズィ エウジェニオ

緻密に考えられたバランスと複雑さ、奥に見える土地の強い個性。トレンティーノという厳しい環境に向き合い続けた最高の造り手

トレンツの南、ロヴェレート近郊の町ヴェオラーノ。スプマンテの生産やマルツェミーノを代表として昔から盛んに栽培・醸造が行われてきた土地。とはいうものの、基本的にはスプーゾ(量り売り)の文化であり、多産に適したペルゴラ仕立てのブドウ棚の風景が良く似合う土地。父のブドウ作りが彼にとってのスタート、そして醸造家としての道を選ぶ。いかに的確に、効率よく、合理的に、そのような言葉ばかりの醸造から解放されるきっかけとなったものは、土地の適性、ブドウ樹の計り知れない可能性を自ら体験したこと。

畑は大小 10 か所以上に点在し、マルツェミーノをはじめとし、カベルネ ソーヴィニオンやメルロー、ノズィオーラ、ピノ ビアッコ、シャルドネ等を栽培。しかしそれぞれの畑は細かく寸断され、合わせてもわずか 6ha にしか過ぎない。畑の土壌は、この地域全般に言える砂質、粘土質土壌、標高 750m にある Barassa の畑(シャルドネ)やノズィオーラ、ピノ ビアッコの畑は、細かく砕かれた石灰岩が多く含まれており、非常にミネラルに富んでいる。標高の高さや痩せて岩石の多い特徴が似ていることから「Piccolo Dolomiti」(小さなドロミテ渓谷)と呼ばれている。

栽培に関しては、完全に無肥料にて栽培を行い、使用しているのは極少量の銅と硫黄物(特に銅は 6 月初めまでしか使っていない)、そして天然由来のハーブやエキス類を粘土と攪拌した調剤を散布。ほとんどの畑が、農薬などの使用が始まる以前に放棄された土地であることから、一切の薬品類の残留がない土地であること、そして手つかずの森林に囲まれ、複雑な生物環境が保たれていることは、彼の考える栽培に欠かせない要素の一つである。土地の安定、ブドウ樹それぞれの栽培の安定、畑で起きる目覚ましい成長は、エウジェニオの価値観に多大な影響を与えることとなった。カンティーナでの作業ではどうすることもできないほどの果実の熟成、樹の健全化は、彼の膨大な経験を凌駕し、新たな一歩を踏み出させることとなった。

醸造に関して、エウジェニオの考える、そして思いつくほとんどの行為に対して、数えきれないほどの実践と考察を続けてきた、それは異常とも言うていいほど、、、それほど彼の探究心に終わりはない。

白ブドウでのマセレーション(果皮浸漬)を行った醗酵の与える効果、そして熟成に至るまでの様々な実験。醗酵という、ある意味「安定」した状態を維持することで、これまでにない果実の個性・味わいを表現。そして近年、樹齢を重ねたノズィオーラが、エウジェニオの想像をはるかに超える伸びしろを持っていたこと、結果ノズィオーラの成長とともにワイン自体がひとまわり大きくなり、圧倒的な成長を見せてくれた。さらにそれぞれの品種が、驚くほど緻密に組み上げられたピアンコ、アニーゾス。

ペルゴラという仕立ての良さを十分に引き出し、弱さをしっかりと補うべく改良した仕立てでは、樹上での長期間の熟成を可能にした。収穫後マセレーションを行いつつ野生酵母による醗酵を行い、果皮と接触していることで非常に安定した状態で熟成。マルツェミーノの持つ果実的デリケートさと柔らかさを十二分に感じさせてくれるポイエーマ。これまで



の彼には感じられなかった圧倒的なポジティブさ、素直すぎる飲み心地と飾りっ気のない果実。完全に一皮むけたエウジェニオを感じられる味わい。対照的に、ドーロンはマルツェミーノの持つタンニンのしなやかさと、果実の甘味を表現。3か月に及ぶアパッシメント(ブドウの影干し)の後、除梗せず90日を越えるマセレーションを行い、野生酵母による醗酵。十分な果実的甘味と柔らかなタンニン、繊細な奥行きをもつ。

50日を越えるマセレーション、十分すぎる奥行きと骨格を持つにもかかわらず、カベルネ ソーヴィニオン・メルローらしからぬ圧倒的な果実感としなやかさをもつエゼジェズィ。十分な果実の凝縮とタンニンを感じつつも、素晴らしい飲み心地と余韻、強さだけではないエレガントさ、しなやかさを感じる。

ロザートは偶然から生まれた産物でありつつ、彼らしさに溢れたワイン。エセジェジの畑で収穫前、雹によって傷ついてしまった一区画のブドウをマセレーションせずに圧搾、野生酵母による醗酵を行ったロザート。しかし、ロザートが持っている一種の不安定さ(果皮のアントシアニンの保護もなく、白ブドウの持っている抗菌作用もないということ)、これを補うために行ったこと、それはバツラルサ(標高750mの畑)で収穫したシャルドネを中心としたヴィナッチャ(圧搾の終わった果皮・種)を加えるという驚くべき手段、、、。



1か月に及ぶ白ブドウ(果皮のみ)のマセレーション。結果、非常に不安定であるはずのロザートの醗酵過程を、白ブドウの果皮で守ること。結果、驚くほどの安定を手に入れた。それでいて、もの凄いいバランス感のあるロザートが生まれることとなった。

そして 13.14.15 という 3つのヴィンテージを組みあわせるという荒業によって誕生したカベルネフラン。マセレーションだけではない、酵母による保護を最大限利用した奇抜すぎる手法。圧搾後は極力酸素との接触を避けつつ、そこに翌年のヴィンテージを加える。(結果、樽の中で眠っていた酵母が活性化し、その分酸素から耐えられる期間が伸びるという事につながる)、これを 3回繰り返した結果、SO2の添加を極端に減らすことができる。強烈な土地環境(強い砂質、自根による植樹)で収穫したカベルネフラン、その繊細な香りを十分に尊重した結果、ヴィンテージをなくすという手段に踏み切るという大胆さ。エウジェニオの探究心と、尽きる事のない実験。彼以外には決してできない唯一の、そして素晴らしい存在感を持ったワインを造りだす。

Rosi Eugenio ローズィ エウジェーニオ トレンティーノローヴェレート

Anisos アニーゾス	2016	白	750ml	¥4,500	ノズィオーラ 50%、ピノビアンコ 30%、シャルドネ 20%
					様々な手法を用いて品種ごとに醸造。木樽にて 24カ月の熟成。 2016はバランスの取れたエレガントさを持ったヴィンテージ。ノズィオーラにはボトリティス(貴腐菌)が多くみられた。また、ノズィオーラの半分は約2か月のアパッシメント(陰干し)を行っている。
Riflesso Rosi リフレッソ ローズィ	2018	ロゼ	750ml	¥2,800	マルツェミーノ、カベルネソーヴィニオン、メルロー、白ブドウの果皮(ノズィオーラ、シャルドネ、ピノビアンコ)、黒ブドウは収穫後ごく短時間の果皮浸漬を行い醗酵が始まるのを待つ。醗酵が終わるタイミングで、アニーゾスのプレスで出た白ブドウの果皮を加え、30日間のマセレーション。白ブドウの要素によってワインを守る、独自の完成で造られるロザート
Esegesi L'Incontro エゼジェズィ リンコントロ	2010	赤	750ml	¥5,500	カベルネ ソーヴィニオン 80%、メルロー20%、樹齢 18~20年。収穫後、果皮と共に2か月、野生酵母による醗酵。木樽にて2年間の熟成、通常のエゼジェズィの一部をボトル詰め後ストックし、瓶内で60か月の熟成。エウジェーニオ自身が納得ができるまで、十分に熟成させてからリリースする、エゼジェズィの完成形ともいえるワイン。

Poima ポイエーマ	2014	赤	750ml	¥4,500	マルツェミーノ、樹齢10~35年。収穫後、セメントタンクの中で約1か月、果皮と共に醱酵を行う。他に全体の15%のブドウは4週間のアパッシメントを行った後、除梗せずにセメントタンクに加えて約1か月。压榨後、750Lの木樽にて1年間、ボトル詰め後さらに1年間熟成。密度がありつつも繊細、柔らかな余韻をもったヴァンテージ。
Esegesi エゼジェズィ	2013	赤	750ml	¥4,800	カベルネ ソーヴィニヨン 80%、メルロー20%、樹齢18~20年。樹上で限界まで遅らせてから収穫、果皮と共に約50日、野生酵母にて醱酵を促す。压榨後、木樽(500L)にて24か月、ボトル詰め後36か月の熟成。高密度な果実と華やかで奥深い香り。カベルネというブドウに対するイメージを覆す、繊細さ、そして奥行きを表現。
Cabernet Franc 13.14.15 カベルネフラン	13/14/15	赤	750ml	¥6,500	カベルネフラン、樹齢30年、すべてフランコ ピエーデ(自根)にて植樹された畑。強烈な砂質土壌。収穫後古バリックにて2週間以上のマセレーション、野生酵母による醱酵を促す。2013.2014.2015という3つのヴァンテージをまるでソレラのように注ぎ足すことで、驚くほど長い期間醱酵を続けることができる。結果SO2の保護がなくとも十分な長期熟成に耐えうる環境を作り出す、という奇抜な発想により生まれたワイン。驚くほどのしなやかさと味わい、奥行きをもつ。
Doron ドーロン	2013	赤甘	375ml	¥5,200	マルツェミーノ、収穫後、3か月に及ぶアパッシメント(ブドウの影干し)を行う。その後、除梗せず約3か月果皮と共に醱酵を行う。压榨後古バリックに移し24か月の熟成。レチオートの手法に着想を得た、デリケートなマルツェミーノの個性を引き継いだ、個性的なヴィーノドルチェ。